

2019年度

さかい福祉と介護の 実践発表会

未来を
代表ある仕事
知っていますか？

令和元年9月14日（土）

堺市立東文化会館 文化ホール

主 催

堺市・関西大学・堺市老人福祉施設部会

後 援

大阪府社会福祉協議会・堺市社会福祉協議会



2019年度 さかい福祉と介護の実践発表会 プログラム

2019年9月14日(土)
堺市立東文化会館 文化ホール

第1部 (5階メインホール 11:00-12:00)

堺市健康福祉局長 挨拶

平成30年度堺市働きやすく魅力あふれる介護事業所等表彰 表彰式

【事業所表彰】

法人名	事業所名
社会医療法人 頌徳会	介護老人保健施設 ソルヴィラージュ
社会福祉法人 みささぎ会	高齢者ケアセンター 大仙もずの音
社会福祉法人 堺福祉会	特別養護老人ホーム ハートピア堺
社会医療法人 生長会	介護老人保健施設 ベルアモール
社会福祉法人 五常会	特別養護老人ホーム ゆーとりあ
社会福祉法人 五常会	ケアハウス ゆーとりあ

【きらめき職員表彰】

法人名	事業所名	表彰職員
社会福祉法人 みささぎ会	高齢者ケアセンター 大仙もずの音	服部 良美 淵本 直志 山本 憲
社会福祉法人 堺福祉会	特別養護老人ホーム ハートピア堺	河内 千秋 高野 有里子 竹越 悠加
社会医療法人 生長会	介護老人保健施設 ベルアモール	勝 綾央 栗田 彩子 山野 博子
社会福祉法人 五常会	特別養護老人ホーム ゆーとりあ	佐竹 晃 沼谷 佐和子
社会福祉法人 五常会	ケアハウス ゆーとりあ	池北 和代
社会福祉法人 関西福祉会	特別養護老人ホーム 陵東館	横山 孝志

3階フラットホールでは、喫茶コーナーを設置しています。

ご休憩やご歓談など、お気軽にご利用ください。

第2部 (5階メインホール 13:00-16:00)

講評:黒田 研二 教授 (関西大学 人間健康学部)

	法人名	発表者	演題名
演題1	社会福祉法人 頌徳福祉会 介護老人福祉施設 ソルメゾン	田中 大貴	'五感'を使って楽しんでいただける食事の提供 ～厨房自営化の取組み～
演題2	社会福祉法人 東光学園 特別養護老人ホーム ふれ愛の家	山本 崇 森影 みゆき	パタカラ体操で誤嚥を無くそう
演題3	社会医療法人 頌徳会 介護老人保健施設 ソルヴィラージュ	吉田 和代	経口維持加算の取組みについて
演題4	株式会社ダイフク 介護付き有料老人ホーム たなごころ毛穴	高宮 昭仁 小西 敦子	健康づくりの3要素へのサポート
演題5	シャローム株式会社 やすらぎの介護シャローム 晴れる家ステージ	大平 紗規子	デイサービスにて集団で立ち座り運動を 継続することにより機能改善がみられた症例

講 評

演題6	社会福祉法人五常会 特別養護老人ホームゆーとりあ	野村 晋平 柿崎 渚	学生さんに伝えたい!看取り介護を通して得られた “介護の素晴らしさ・やりがい”
演題7	社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺	山田 聖子	在宅介護支援センターは活躍できるか
演題8	社会福祉法人 関西福祉会 特別養護老人ホーム 陵東館	大山口 剣一	高齢者虐待防止委員会活動
演題9	株式会社 Merry Care メリーケア 担い手登録型訪問サービス	麓 眞知子	アクティブシニアを介護職の人材に

講 評

〈休 憩〉

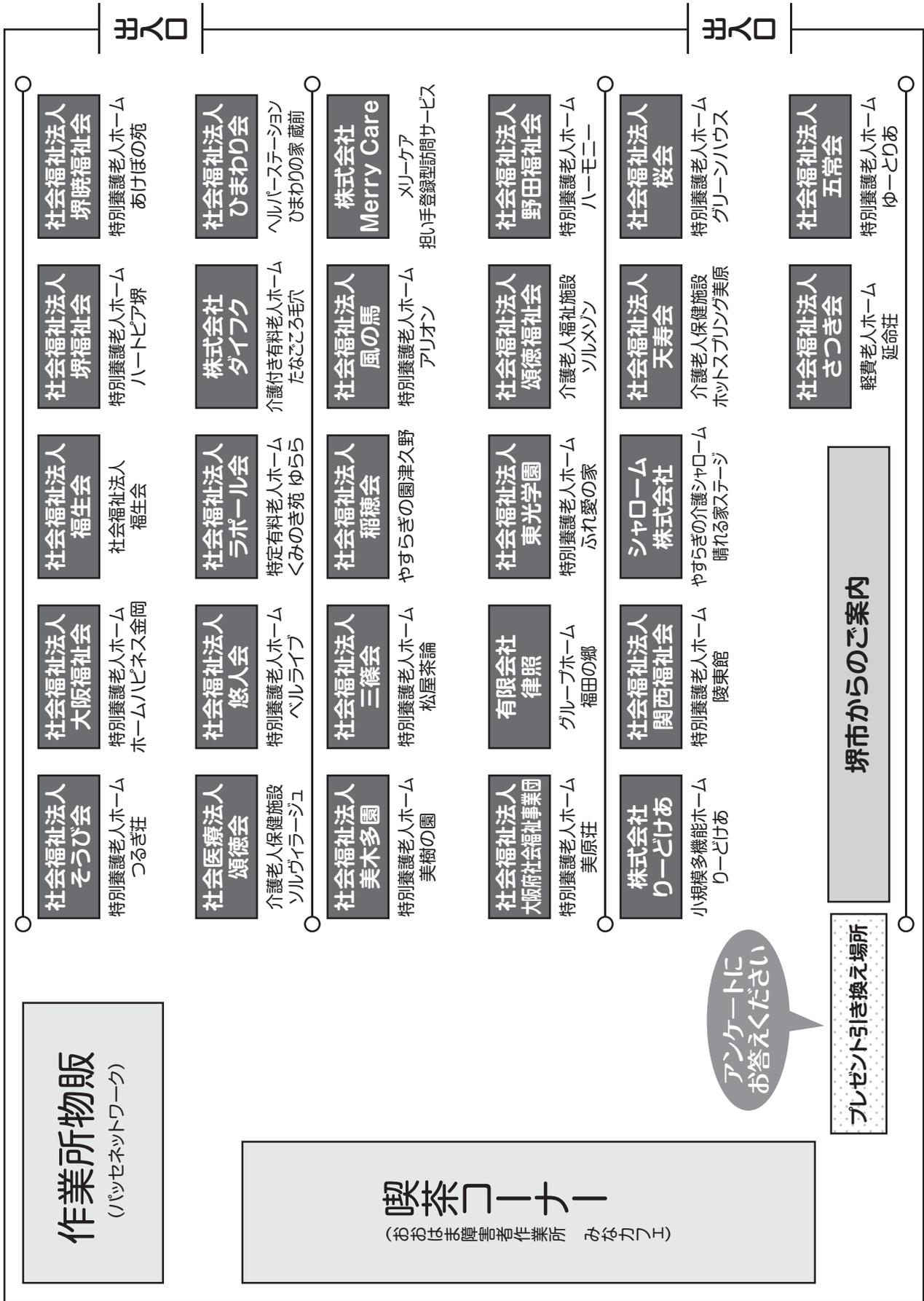
演題10	社会福祉法人 ひまわり会 ヘルパーステーション ひまわりの家 蔵前	太田 斉子	訪問介護事業所における生産性向上の取組み
演題11	社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園	林 秀学	職員を確保するために ～時短職員を増やす取組み～
演題12	社会福祉法人 天寿会 介護老人保健施設 ホットスプリング美原	木村 和孝	施設ケアのランドデザイン(全体構想)を 考える
演題13	社会福祉法人 そうび会 特別養護老人ホーム つるぎ荘	垣内 英明	介護職員の腰痛予防プロジェクト
演題14	株式会社 りーどけあ 小規模多機能ホーム りーどけあ	片岡 勇樹	多世代でケア!高齢者でも認知症の方でも 日常を非日常にしないケアの実践

講 評

演題15	社会福祉法人 野田福祉会 特別養護老人ホーム ハーモニー	宇野 哲成	利用者の方が穏やかに生活を送れるために 出来る事を見つける
演題16	社会福祉法人 さつき会 軽費老人ホーム 延命荘	杉本 淳	軽費老人ホームにおける看取りケアについて
演題17	社会福祉法人 大阪福祉会 特別養護老人ホーム ハピネス金岡	中原 伴安 喜田 将生	生きがいのある人生を ～一人ひとりの「やりたい」を形に～
演題18	社会福祉法人 桜会 特別養護老人ホーム グリーンハウス	中釜 莉那	ひとつひとつの思いに寄り添うためのケア
演題19	社会福祉法人 悠人会 特別養護老人ホーム ベルライブ	安井 晃	余暇活動の充実～地域ボランティアの協力と 世代間交流を活かした実践報告～
演題20	社会福祉法人 稲穂会 やすらぎの園津久野	高田 理恵	地域の中の施設として ～わたしたちができること～

講 評

ポスター掲示及び就職相談会 (3階フラットホール 12:00-17:00)



アンケートにお答えいただいた方にプレゼントをお渡ししています。
回答方法はP29に記載していますので、ご覧ください。

目次

《口述発表》 ※口述演題についてもポスター掲示があります。

テーマ：食事・栄養・口腔ケア

**‘五感’を使って楽しんでいただける食事の提供
～厨房自営化の取組み～** 1

社会福祉法人 頌徳福祉会 介護老人福祉施設 ソルメゾン

テーマ：食事・栄養・口腔ケア

パタカラ体操で誤嚥を無くそう 2

社会福祉法人 東光学園 特別養護老人ホーム ふれ愛の家

テーマ：食事・栄養・口腔ケア

経口維持加算の取組みについて 3

社会医療法人 頌徳会 介護老人保健施設 ソルヴィラージュ

テーマ：食事・栄養・口腔ケア／リハビリ

健康づくりの3要素へのサポート 4

株式会社ダイフク 介護付き有料老人ホーム たなごころ毛穴

テーマ：リハビリ

**デイサービスにて集団で立ち座り運動を継続することにより
機能改善がみられた症例** 5

シャローム株式会社 やすらぎの介護シャローム 晴れる家ステージ

テーマ：人材育成・OJT

**学生さんに伝えたい！看取り介護を通して得られた
“介護の素晴らしさ・やりがい”** 6

社会福祉法人 五常会 特別養護老人ホーム ゆーとりあ

テーマ：人材育成・OJT／地域との連携／社会（地域）貢献

在宅介護支援センターは活躍できるか 7

社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺

テーマ：人材育成・OJT

高齢者虐待防止委員会活動 8

社会福祉法人 関西福祉会 特別養護老人ホーム 陵東館

テーマ：在宅生活の充実

アクティブシニアを介護職の人材に 9

株式会社 Merry Care メリーケア担い手登録型訪問サービス

テーマ：業務改善

訪問介護事業所における生産性向上の取組み 10

社会福祉法人 ひまわり会 ヘルパーステーション ひまわりの家 蔵前

《口述発表》 ※口述演題についてもポスター掲示があります。

テーマ：人財活用

職員を確保するために～時短職員を増やす取り組み～

11

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園

テーマ：人材育成・OJT

施設ケアのグランドデザイン（全体構想）を考える

12

社会福祉法人 天寿会 介護老人保健施設 ホットスプリング美原

テーマ：スタッフの腰痛予防を考える

介護職員の腰痛予防プロジェクト

13

社会福祉法人 そうび会 特別養護老人ホーム つるぎ荘

テーマ：認知症ケア

多世代でケア！

14

高齢者でも認知症の方でも日常を非日常にしないケアの実践

株式会社 りーどけあ 小規模多機能ホーム りーどけあ

テーマ：認知症ケア

利用者の方が穏やかに生活を送れるために出来る事を見つける

15

社会福祉法人 野田福祉会 特別養護老人ホーム ハーモニー

テーマ：在宅生活の充実／多職種連携

軽費老人ホームにおける看取りケアについて

16

社会福祉法人 さつき会 軽費老人ホーム 延命荘

テーマ：リハビリ

生きがいのある人生を～一人ひとりの「やりたい」を形に～

17

社会福祉法人 大阪福祉会 特別養護老人ホーム ハピネス金岡

テーマ：特別養護老人ホームにおける個別ケア

ひとつひとつの思いに寄り添うためのケア

18

社会福祉法人 桜会 特別養護老人ホーム グリーンハウス

テーマ：認知症ケア

余暇活動の充実

～地域ボランティアの協力と世代間交流を活かした実践報告～

19

社会福祉法人 悠人会 特別養護老人ホーム ベルライブ

テーマ：社会（地域）貢献

地域の中の施設として～わたしたちができること～

20

社会福祉法人 稲穂会 やすらぎの園津久野

《ポスター掲示》

テーマ：食事・栄養・口腔ケア／排泄・入浴ケア／認知症ケア

個別ケアの導入によるQOLの向上

21

社会福祉法人 堺暁福祉会 特別養護老人ホーム あげぼの苑

テーマ：人材育成・OJT／その他

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）への取り組み

22

社会福祉法人 風の馬 特別養護老人ホーム アリオン

テーマ：人材育成

法人内研修制度、技能実習生受け入れについて

23

社会福祉法人 ラポール会 特別養護老人ホーム くみのき苑 ゆらら

テーマ：認知症ケア

全ての人を笑顔にすることが目標なのです！

24

有限会社 律照 グループホーム 福田の郷

テーマ：レクリエーション

ご利用者の笑顔が見たい

25

社会医療法人 頌徳会 介護老人保健施設 ソルヴィラージュ

テーマ：地域との連携／社会（地域）貢献

地域とのつながり“みんなの食堂”から始まる新たな展開

26

社会福祉法人 福生会

テーマ：自立支援

私らしい生活を実現するノーリフティングケア ～介護職のイメージ革新～

27

社会福祉法人 三篠会 特別養護老人ホーム 松屋茶論

テーマ：在宅生活の充実

堺市内に数少ない定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業の 実践について

28

社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 美原荘

《口述発表》

※口述演題についてもポスター掲示があります。



テーマ：食事・栄養・口腔ケア

‘五感’を使って楽しんでいただける食事の提供 ～厨房自営化の取組み～

社会福祉法人 頌徳福祉会 介護老人福祉施設 ソルメゾン
生活相談員：田中大貴

●事業所紹介

当施設は、イベント・お食事・レクリエーション・リハビリテーションそれぞれに工夫を凝らし、ふれあいに満ちた明るい施設を目指しています。また、同じグループ内の病院・老健・訪問看護等とも連携し、切れ目のないサービスを提供しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

開設以来、委託給食での食事提供を続けてきましたが、コスト面の制約から食材を自由に選択できなかつたり、人員や時間的な問題から提供方法や配膳方法も限られており、食事がマンネリ化してきていました。他施設と十分差別化できる美味しい食事の提供と、レクリエーション・食イベントをさらに充実させたいという目的を達成するため、厨房の自営化に取り組みました。

【具体的な取組み】

誰がいつまでに何をするかを明確にし、進捗管理を行いました。その一つとしてシステム運用ルールを作成し、献立作成・発注業務を円滑にし、提供できる料理のバリエーションを増やしました。また、委託給食の問題点を踏まえ、‘混乱を招くことなくスムーズに自営化へ移行する’ため、作業工程表を作成し、今まで使用していた冷凍野菜を生野菜に変更し、生果物の提供頻度を上げたり、生のお魚の提供もできるようにしました。さらに、ご利用者の目の前での実演調理頻度も増やし、味覚だけではなく視覚や嗅覚など‘五感’を使って食事を楽しんでいただける工夫を盛り込みました。

【活動の成果と評価】

自営化後の嗜好調査で、‘今のお食事に満足していますか’という項目では‘はい’の回答率が自営化前の81%から91%までに大幅に増加しました。さらに、食イベントを強化したデイサービスのご利用者数平均は過去最高を達成しました。ご利用者からは「前より食事が美味しくなった」「食材も豪華になった」「実演料理を楽しみに来設している」等、好評のお声をいただいております。このような結果につながりました。

【今後の課題】

‘楽しく食べていただくこと’を目的に、実演イベントを盛り上げていきます。デイサービスでは実演調理の開催頻度を増やし、入所では各ユニットのご利用者個人個人に合わせた食イベントを開催していく予定です。また、ご利用者の要望を細やかに取り入れ、新メニューの開発や、ご利用者に参加いただいている料理レクリエーションの内容検討に活かしていきたいと思っております。今後はブリの解体ショーなどの豪華なイベントも実施していきたいと考えています。

テーマ：食事・栄養・口腔ケア

パタカラ体操で誤嚥を無くそう

社会福祉法人 東光学園 特別養護老人ホーム ふれ愛の家
山本崇／森影みゆき

●事業所紹介

特別養護老人ホーム・短期入所生活介護・デイサービス・居宅介護支援事業所・
中第二包括支援センター・附属診療所

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

昼食前に嚥下体操（パタカラ体操とラジオ体操）を行い、唾液量を増やす。また、口・舌の動きをスムーズにしてムセる事を減らし誤嚥を防ぐ。
また、日頃食事が低下している利用者様の食事量の増加を目指し、飲み込みを良くしてもらおう。

【具体的な取り組み】

全職員へ嚥下体操の効果やマニュアルを職員へ周知し、必要性を理解してもらおう。また、臥床されている利用者様対象のマッサージも行い、入居されている利用者様全員が美味しく食事を摂取してもらえるよう取り組み行う。
昼食前にラジオ体操、嚥下体操（パタカラ体操・あいうべ体操）、またパタカラを使って季節に応じた歌（7月はキラキラ星）を唄い、嚥下促進を図る。

【活動の成果と評価】

現在、取組み中

【参考資料など】

一般社団法人 大阪府歯科医師会「口腔保健指導ガイドブック」

テーマ：食事・栄養・口腔ケア

経口維持加算の取組みについて

社会医療法人 頌徳会 介護老人保健施設 ソルヴィラージュ

介護福祉士：吉田和代

●事業所紹介

当施設は、医師・看護師・介護士・理学療法士・作業療法士・相談員等多職種専門スタッフが常駐しており、特にリハビリテーションに力を入れています。医療を必要とされている方には、隣接する日野病院もご利用いただけます。また、在宅に戻られた後も、通所リハビリテーションや訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション等在宅サービスも充実しており、同じグループ内で切れ目のないサービスを提供しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

H18年4月から経口維持加算が介護保険制度に導入されました。その後、改訂により「自分の口から食べる楽しみを得られるように、多職種による支援の充実を図る」目的から、多職種による食事の観察やカンファレンス等の取組みのプロセスおよび経口維持のための支援を評価する観点で見直されました。当施設では、看護師、管理栄養士が中心となり評価と見直しを行いました。摂食嚥下認定看護師のもと、一から学習を見直し、摂食嚥下委員会の立ち上げ、多職種で共有する場を設けました。委員会では、基礎知識を付けたことで、ご利用者の持っている能力を見極め、食べる力や環境を整えておいしく楽しく安全に経口摂取するための取組みを行いました。

【具体的な取組み】

事例検討を行いました。A氏82歳、病名は多系統萎縮症。入所時は車いす使用、食事は自己摂取可能、食事形態は軟飯、一口大を希望されました。病状の進行もあり、飲み込みに問題がみられていました。疲労感が強く、車いすに座ることも難しくなっていました。今まで通りの食事形態を希望されたため、形態変更はせず、口の中でまとまり易くなるように、日々の口腔体操、おでこ体操を実施しました。その後も嚥下状態は改善されることなく、摂食嚥下委員会にて不顕性誤嚥や窒息リスクが高く、体力面なども考慮し、1食のみムース食へ形態変更するか、食事姿勢の見直しの提案がありました。私たちは、できる限りご本人の意向を尊重し、食事形態を変更するのではなく、食事の姿勢にアプローチをしました。

【活動の成果と評価】

評価から約1ヶ月は問題なくお過ごしになりました。その後、病状の進行により現在はムース食へ変更しているものの、食事姿勢が安定していることから、安全に嚥下が行え誤嚥性肺炎の再発も無くQOL維持に繋がっています。今後も継続し嚥下評価を行い、ご利用者のニーズに沿い、日々のADLやQOLを維持するために私たち多職種が関わっていくことは、重要だと思えます。

【今後の課題】

老健施設は多職種連携が強みの一つで、それぞれの専門性を生かしチームとして、ご利用者のQOL維持、向上ができると再認識できました。今後も、ご利用者の希望に寄り添い取組みたいと思えます。

【参考資料など】倫理的配慮について

本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認し説明・同意を得た。

テーマ：食事・栄養・口腔ケア／リハビリ

健康づくりの3要素へのサポート

株式会社ダイフク 介護付き有料老人ホーム たなごころ毛穴

理学療法士：高宮昭仁／管理栄養士：小西敦子

●事業所紹介

お食事の時間もくつろぎの時間も、ご入居者様自身のサイクルでお過ごしいただけるスタイルを軸にケアに入らせていただいております。そこに本年5月より個別機能訓練としてリハビリテーションの提供を導入いたしました。これにより入居者へ栄養と運動、そしてご自身のくつろぐ時間をご提供できるようになりました。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ・本年4月より介護付き有料老人ホームへ施設基準を変更した「たなごころ毛穴」。5月より理学療法士が入職し、高齢者の健康維持の3要素である「栄養」、「運動」、「休養」を提供できる体制になった。
- ・今回はそのうち「栄養」と「運動」に着目し経過を追った。

【具体的な取り組み】

- ・弊社の給食サービスと連携し、1日および1週間の摂取カロリー、栄養素の確認。
- ・週に2回の運動療法を実施し、入居者の身体状況の確認、評価を追った。

【活動の成果と評価】

- ・日々の食事摂取量のチェックと週に2回の集団体操、個別機能訓練を通し、1か月単位で身体評価を行った。
- ・5月から開始し、7月までの経過を発表する。

【今後の課題】

- ・サンプル数が少なく、協力者も意欲的な男性だけであったこと。
- ・今後は入居者全員の評価を行えばより有効性が示せるのではないかと考える。

テーマ：リハビリ

デイサービスにて集団で立ち座り運動を 継続することにより機能改善がみられた症例

シャローム株式会社 やすらぎの介護シャローム 晴れる家ステージ
機能訓練指導員（柔道整復師）：大平紗規子

●事業所紹介

通所介護事業所

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

福岡県の浅木病院では、起立-着席訓練を1日に500回実施することで早期の在宅復帰を実現している。
視察に行き実際の様子を伺った中で、当デイサービスにおける高齢者の下肢筋力トレーニングにも効果が期待できると考えて検証を行なった。

【具体的な取り組み】

17名のご利用者様に実施した。
100回の起立-着席訓練を1時間かけて行った。
同じ運動を1年間継続して行った。

【活動の成果と評価】

5m歩行テスト、30秒立ち座り回数テストで成果がみられた。
移乗、移動のADLが改善した。

【今後の課題】

浅木病院では起立-着席訓練を1日に500回実施している。
当デイサービスでは時間の制限があるために1日に100回の実施に留まった。
今後は経験値を蓄積して、適正回数の把握と、より効果的な機能訓練を開発していく必要性がある。

【参考資料など】

回復期リハビリテーション病棟における脳卒中の在院日数を45日に短縮（浅木病院ホームページ）
[http://www.asagi-hospital.or.jp/publics/index/98/detail=1/c_id=354/
page354=1/type014_354_limit=20/#page98_354_81](http://www.asagi-hospital.or.jp/publics/index/98/detail=1/c_id=354/page354=1/type014_354_limit=20/#page98_354_81)

テーマ：人材育成・OJT

学生さんに伝えたい！看取り介護を通して得られた “介護の素晴らしさ・やりがい”

社会福祉法人 五常会 特別養護老人ホーム ゆーとりあ
介護職員：野村晋平／介護職員：柿崎渚

●事業所紹介

平成27年4月に開設したユニット型特別養護老人ホーム。機能訓練型デイサービスを併設し、高齢者総合福祉施設として「あたりまえの暮らし」「おもいおもいの暮らし」「つながりある暮らし」の実現に向け取り組んでいます。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

終の棲家である特別養護老人ホームに勤める若い世代の介護職員が、看取り介護への経験を通して、「あたりまえの暮らしの延長にある死」や「一人ひとりの思いを暮らしに反映することの大切さ」、「人生の最期に関われる意義深さ」等を身をもって学び、介護職員として真に大切なことに気づき成長していくノンフィクション。

【具体的な取り組み】

～看取りへの関わり～

- ・突然の死の体験 …「死」がはじめて身近なことに。
- ・セルフケア …「死」を自分なりに整理する。
- ・カンファレンス …専門職としてチームで支える。共に振り返る。
- ・ご自宅への訪問 …ご家族の思いを聞く。在りし日の姿を知る。
- ・グリーフケア …ご家族と共に偲び、支える。

【活動の成果と評価】

～専門職としての学び

- ・多職種連携 …チームとしてそれぞれの専門性を発揮する大切さ
- ・介護職の専門性、やりがい …介護職にしかできない役割。自分がそこにいる意味。
- ・死生観 …お看取りから自身の死生観を学び、次のケアに活かす。

【今後の課題】

- ・知識・技術の習得 …専門性を高め続ける。
- ・代弁者としての力をつける …より深く知り、察し、発信する。
- ・介護職の素晴らしさ、やりがいを伝えていく。…後輩そして介護職を志す学生さんへ。

テーマ：人材育成・OJT／地域との連携／社会（地域）貢献

在宅介護支援センターは活躍できるか

社会福祉法人 堺福祉会 特別養護老人ホーム ハートピア堺
ハートピア堺相談支援室 係長：山田聖子

●事業所紹介

ハートピア堺相談支援室は在宅介護支援センター・居宅介護支援事業所・地域包括支援センターが所属し、主に地域活動（施設内で認知症カフェ・みんな食堂（こども食堂）・福祉ワーカーズカフェを開催し、地域内に地域サロン懐かしミュージアムふらっと三宝を設置）を行っている。母体施設は特別養護老人ホーム84床・ショートステイ16床・デイサービス65名・ヘルパーステーションを併設。施設内の他部署との横のつながりを作るため委員会制を取り入れ、新しい取り組みにチャレンジしている。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

相談支援室として地域活動に取り組んでいるが、その機能が活かされているとは言えない在宅介護支援センターがケマネジャーや地域包括支援センターと協働して活躍できるかのチャレンジ。

【具体的な取り組み】

平成28年、在宅介護支援センターが企画し、校区内の文化住宅2室をリフォームし、「懐かしミュージアム」を設置。当初は回想法が出来る認知症カフェを目指したが、誰でも立ち寄れる、地域の方がゆるーくつながる地域サロン「ふらっと三宝」を併設し現在に至る。毎月10個ほどのプログラムと特別イベントを行っており、校区福祉委員会の支援や地域のボランティア様の協力等を得ている。最大の特徴は、同じ三宝校区内の（社医）清恵会三宝病院様・（福）三篠会松屋茶論様と違う法人が共同運営し、デイ連絡会などの協力も得ている点である。

【活動の成果と評価】

ふらっと三宝の活動は、三宝校区の活動として認めていただき、町会掲示板を通じての活動の周知や、校区福祉委員会からのボランティア協力、必要物品の購入等、多大なご支援を頂いている。プログラムの実施においては、各法人の専門職にご協力いただき、特に介護福祉士が地域活動に参加することは、施設外での活動の機会という点では貴重であり、地域包括ケアシステムの構築に置いて大きな意味がある。また、ふらっと三宝の運営会議では防災や地域包括ケアシステムについてなどの議題も含み、地域ケア会議として成立している。管理面での中心は在宅介護支援センターが担っており、委託費がないからこそ地域貢献を名目に自由な発想で運営ができる強みを感じている。

【今後の課題】

ふらっと三宝はハートピア堺と別にあるからこそ、地域の方が出入りし、地域の皆様とゆるくつながることができている。今後は、ハートピア堺の入所者やご利用者が地域の一員として活動できる事、地域の方が気軽に施設に来て活動する機会が、地域包括ケアシステムには必要と考える。昨年度はふらっと三宝のイベント「釣りでリハビリ」への参加や入所者の方がみんな食堂での手打ちうどん披露など少しずつ一緒に出来ているが、今年度は学生ボランティアチームの助けも借りて、高齢者の想いを叶えるというタイトルで、地域住民や入所者と山登りや郷土料理を作るなどの会を予定している。スタッフが施設内だけのケアに留まらず、地域資源を活かし、地域の方と一緒に在宅ケア・施設ケアを作っていけるような機会、ボランティア活動の場を作っていきたい。

テーマ：人材育成・OJT

高齢者虐待防止委員会活動

社会福祉法人 関西福祉会 特別養護老人ホーム 陵東館
大山口剣一

●事業所紹介

昭和58年に開設の堺市では、4番目の特別養護老人ホーム。開設以来、入浴サービス事業から始まった在宅事業を通じて、自宅の介護から離れられない家族の現状を目の当たりにし、全国で第一号の単独型短期入所50床を開設した。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

高齢者虐待防止委員会は、どちらの施設さんでも配置している委員会ではありますが、この委員会では虐待防止の取り組みと併せて、コミュニケーション力をはじめ職員を育てていくことも含めています。その中で陵東館では、開設以来、大切にしてきたことを引き継ぎ、それをベースにして取り組んでいます。

【具体的な取り組み】

毎月、委員会を開催しております。その議題は、入所者、利用者を取り巻く職員の関わり方の話し合いと、研修報告、或いは介護専門誌の事例検討、または新聞記事から、他人事と考えず、自施設に置き換えたなら、など取り組みの方向性を話し合い、会議録を全職域に供覧し、職員会議の場でも報告しております。

【活動の成果と評価】

30年度は、10月の職員研修会で、ある事例をもとに、3グループに分かれ意見、考え方や改善点、また悩みを出し合うグループディスカッションを行いました。
ほんの一例ですが、自分なりの感情のコントロールの方法を見つけることが大事、利用者から強い抵抗にあって「なんでこんなことされなあかんの」と思いが伝わらず残念な気持ちや腹が立つこともある。また別の部署では、利用者も職員も少ない分、接する時間も多ければ一方で、気持ちの逃げ場がない、といったそれぞれの部署ごとに抱える課題があることを知り、聞いた、聞いてもらったりの内部の職員研修をしています。職員は交代勤務ですので職員研修を欠席となる職員もおりますが、欠席職員には簡易なレポート出席をし、全員参加しています。

【今後の課題】

委員会では、「最初の6秒をやり過ごす」「深呼吸をしてから対応する」などの技法から、相手の思いを自分の物差しで押し付けていないか、など気持ちの持ち方についても意見を整理しています。陵東館は昭和58年に開設して36年が経ちますが、当初から脈々と引き継がれていることに「自分に嫌なことは相手も嫌なこと、自分がされたくないことは相手もされたくない」であります。先日、開設時に寮母主任であった先輩にお尋ねすることがありました。その席で、「時代がかわったんだからいつまでも今まで通りとこだわることはないよ。けど、大事なこと、いっぱい捨ててきてるんじゃないの」と忠告をうけハッとしました。陵東館が開設した頃は措置の時代で、高齢者虐待とか身体拘束は厳密な取り組みはまだなかったと聞いております。現在は、介護が重度となり、認知症の対応、既往歴の多い人など、開設当時と違いこそありますが、この言葉から判るように、開設当初には既に今日という虐待防止の取り組み、つまりあるべき姿勢が作り上がっていて、それが途絶えることなく職員同士声掛けあって、今日までに至っているものだと思うのです。今後は、先輩諸氏が築いてきたこの言葉、この思いをベースに、時代の変化にあったものとして咀嚼し、後々に引き継ぎ、次の人材を育てていく職場をつくって参ります。

テーマ：在宅生活の充実

アクティブシニアを介護職の人材に

株式会社 Merry Care メリーケア担い手登録型訪問サービス
担い手登録型訪問サービス：麓真知子

●事業所紹介

メリーケア担い手登録型訪問サービス

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

元気な高齢者を介護職の人材として育成

【具体的な取り組み】

堺市の担い手研修制度を紹介。研修終了後、訪問サービスを担当。

例1：5名を6ヶ月程度担当後、初任者研修受講費を支給。訪問ヘルパー人材としても就労中。

例2：1名を担当中。初任者研修受講を希望。

【活動の成果と評価】

- 働き手側：
 - ①収入が増え老後の経済的支えになっている
 - ②健康管理が進み体調が良くなった
 - ③介護制度及び高齢者の健康全般に対するの知識が豊富になった
- 利用者側：
 - ①年齢が近く会話が弾んだ
 - ②励まされて健康維持ができています
 - ③介護を必要としなくなったケースも出ている

【今後の課題】

1. 制度の周知：
 - ①介護職内
 - ②一般社会
2. 制度の補強

テーマ：業務改善

訪問介護事業所における生産性向上の取り組み

社会福祉法人 ひまわり会 ヘルパーステーション ひまわりの家 蔵前
太田斉子

●事業所紹介

当事業所はサービス付き高齢者向け住宅併設の訪問介護事業所で、住宅内・外合わせて約70-80名の利用者様への訪問介護サービスを提供しております。法人のグループ内に医療法人がある事や、同事業所内に看護師が常時複数いることもあり、利用者様の重症度が高く、緊急時の対応が多いことも特徴です。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

常時スタッフ全体に業務が煩雑で、スタッフ同士、スタッフとサービス提供責任者とのコミュニケーションが十分に行えず、申し継ぎが不十分であったり、タイムリーな相談ができないようなことが起きていた。今回の取り組みで業務の見直しや、ICTの導入などを行い改善へ取り組んだ。

【具体的な取り組み】

タイムスタディーを実施、分析し、業務の中でのむり、むだ、むらを見直す。
サービス提供責任者の本来の業務を見直す。
ICTを活用し、離れた場所でもコミュニケーションが取れ、だれもが同じ情報を共有できるシステムを作る。
全体ミーティングの持ち方の見直し。

【活動の成果と評価】

タイムスタディーを行うことで、スタッフの適正人数がわかるようになり、隙間の時間がある事、同じ仕事を複数のスタッフが重複して行うなどのむだやムラがある事がわかった。今回チャットワークを導入し、他のスタッフの状況や業務の遂行状況が把握でき、またサ責に相談したいことがその場からアプローチすることができるようになり、質や安全性の向上も確保でき、また業務のムダも改善できるようになってきている。

【今後の課題】

まだまだ、チャットワークなどを使いこなすことができているので、使いこなせるようにしていく。
スタッフのスキルの差や業務の速さに差があることなどがわかってきたので、今後は意見を聞くミーティングの充実や、研修の機会を増やしていくなどしていきたい。

【参考資料など】

介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン：厚生労働省老健局

テーマ：人財活用

職員を確保するために ～時短職員を増やす取り組み～

社会福祉法人 美木多園 特別養護老人ホーム 美樹の園
介護支援専門員：林秀学

●事業所紹介

堺市の南部に位置し、泉北・光明池ニュータウンが隣接。湖畔に建ち四季の移り変わりが楽しめる自然豊かな環境です。特養・老健・グループホームの3施設があり、各施設でデイサービスとショートステイを行っています。
その他ケアプラン作成と、高齢者に住居をご用意する事業も実施。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

職員の確保。

【具体的な取り組み】

身体介護以外に特化した、新たな時短業務の創設と運用。

【活動の成果と評価】

煩雑さを極める介護業務を、専門知識を必要とする業務、必要としない業務に分解し再構築。結果、身体介護以外に特化した『生活サポーター』を創設。地域で埋もれている人財別に、働きやすい時間枠を考案し募集。6名の生活サポーターを採用し、現場が希望する時間帯の人員を充足できた。

【今後の課題】

- ・生活サポーターの中から介護職員の育成
- ・生活サポーターの職域拡大。可能性の開拓
- ・シニア層からの募集が多く、主婦層や学生層へのアプローチの可能性も残る

テーマ：人材育成・OJT

施設ケアのグランドデザイン(全体構想)を考える

社会福祉法人 天寿会 介護老人保健施設 ホットスプリング美原

事務長：木村和孝

●事業所紹介

介護老人保健施設はよく老健といわれます。老健は病院やご自宅での生活が少し困難になってきた方がリハビリ等を行い、元気を取り戻してご自宅に戻ることを目的とした施設です。1か月以上の入所、1泊からの短期入所、日帰りの通所のサービスが受けられます。ご利用には要介護認定、要支援認定を受けられた方に限ります

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

介護にかかわる人材の多様性の可能性について

【具体的な取り組み】

無資格・未経験の方へご高齢者のこと、介護のことなどをご理解いただき、興味をもっていただくために…。

介護職をサポートするお仕事をご用意。直接ご利用者様へ触れることのないお仕事です。

たとえば、お部屋の簡単なお掃除やコップ洗い、洗濯や服の補修。少し慣れてきたらシーツ交換も。

介護職員初任者研修等資格取得で、サポートに加え直接ケアにかかわる機会を段階的に取り入れることで、時給を改定する仕組みもつくりました。

【活動の成果と評価】

当施設は2名が在籍。お一人は70歳代の女性の方です。タオル等の簡単なお洗濯や服の補修などミシンを使った仕事を主に担っていただいています。もうお一方は60歳代の女性。簡単な食器洗いやシーツ交換を主に担っておられます。お仕事を通じてご利用者様のこと、施設のこと、介護のことなどの見聞を広めています。年齢的に直接介護を担うお仕事は体力的にも不安に感じておられますが、蓄積した見識でよきアドバイザーになってくださっています。

【今後の課題】

現段階で直接ケアに移行するケースはありませんが、今後このお仕事に少しでも興味をお持ちの無資格未経験の方や学生の方をオープンに受け入れる柔軟な態勢を常に準備しておく必要があります。また、社会構造上将来的には外国人労働者の就業の可能性もひとつの選択肢として意識する情勢といえます。当取り組みはこれに十分にリンクしうる仕組みと意識しておくことも大切です。なにより、ここから派生する新たな施設のカタチを変化を遂げながら進化していく必要があります。

テーマ：スタッフの腰痛予防を考える

介護職員の腰痛予防プロジェクト

社会福祉法人 そうび会 特別養護老人ホーム つるぎ荘

生活相談員：垣内英明

●事業所紹介

つるぎ荘は、平成6年に開設した100床の特別養護老人ホームです。社会福祉法人そうび会は、社会福祉の根本である、「人間尊重」の理念に基づき活動しています。高齢福祉のみならず、全ての人々の幸せを願いつつ医療・保健・教育分野でも地域での生活を支える体制作りに取り組んでいる。その一環として保育事業も展開、児童の愛護にも力を注いでいる。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

当施設では年間に約4名～6名の職員が、利用者の介助中にて急性腰痛症となり、仕方なく欠勤する場合がある。そのような職員を少しでも減らす為、「介護職員の腰痛予防プロジェクト」を発足し、腰痛の悩みを解決する為に取り組みを行った。

【具体的な取り組み】

腰痛予防プロジェクトの具体的な取り組みとしては、まずは介護スタッフのリーダー3名と私で、プロジェクトチームを立ち上げた。テーマとしては、「介護スタッフが腰痛にならず、無理なくケアができる」を目的とし、二つのことに取り組んだ。一つ目は、腰痛予防体操を実施し継続することで、腰痛になりにくい身体づくりを考えた。二つ目は、重度の介護者を移乗介助する際に、福祉用具を用いて無理なくケアできるようにした。この二つの取り組みを引き続き行うことで、介護職員の身体的負担を減らし、職員が働きやすい環境を構築する。

【活動の成果と評価】

今年度の5月より、取り組みを始めている。成果としては、PTより教わった腰痛予防体操を、プロジェクトメンバーが、各スタッフに周知し毎日継続して行っている。今では徐々に浸透してきており、予防体操を行ってから、業務を開始している。福祉用具の使用に関しては、利用者に移乗介助する際、スライドボードを使用しているが、以前の方法より時間が掛ってしまう為、上手く使いこなせていない。その為、安全に且つ確実に実施できるように、研修を行っている。これを1年間通し実施することで、腰痛症になった職員がどれだけ軽減できたか評価していく。

【今後の課題】

介護職員として就業し続けるには、腰痛は避けて、通れない問題である。その為、私たちプロジェクトメンバーが、日々漫然とケアをするだけではなく、様々な取り組みを実施し改善を行ない、職員の身体的な負担を軽減したいと考える。こうした新たな試みを実施しても、早く業務をすませることを優先してしまい、職員に浸透せず、無理な姿勢で介助を続けることで、結果腰痛症を発症し離職につながってしまう。

テーマ：認知症ケア

多世代でケア！高齢者でも認知症の方でも 日常を非日常にしないケアの実践

株式会社 りーどけあ 小規模多機能ホーム りーどけあ
理学療法士：片岡勇樹

●事業所紹介

2019年6月に中区平井に小規模多機能型居宅介護（定員18名、通い9名、宿泊3名）を開設しました。子連れ出勤を可能としているために利用者の横で一緒に子供が遊んでいます。また、当事業所では日常を非日常にしないケアを追求するため、利用者が何をしたいのかをアセスメントし、今までおこなっていた畑仕事や園芸、買物から調理などの役割を持って頂き、利用者が作業を通じて自立支援、社会参加がおこなえるようにケアをおこなっています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

介護事業所でよく見受けられる、アセスメント不足による集団レクリエーションを提供するだけでは自立支援や介護度の維持、改善を目指すには難題が沢山あった。また、長い時間同じ場所に座らされている環境に馴染めない高齢者や認知症の方が見受けられた。介護が必要となっても「住み慣れた家で生活がしたい」という思いを叶えるためには、生活の場面での作業を提供し、役割があることを再認識して頂き、自立支援を促し社会資源の一部として活躍して頂けることを目指した。

【具体的な取り組み】

やりたい事や出来る事などのアセスメントを個々で実施した。事業所内での掃除や昼食の買い出し、調理などおこなえることをスタッフと一緒に実施をおこなった。買い出し時はスタッフの子供のベビーカーを押したり荷物を持って頂いたり生活の場面での役割を提供した。周辺症状で、帰宅願望があっても子供が空間の場にいることや役割を提供することで帰宅願望が無くなり集団での環境にも慣れることが可能となった。

【活動の成果と評価】

若年性認知症の方で作業所等では周囲との関係性がうまく取れずに通えなかった方が、役割を提供し仕事に来るという認識して頂いたことで当事業所に通われてからは1人で歩いて来られるようになった。当初は道に迷うことがあったが、家族と連携を取ることで事業所から迎えに行き連れてくる事が可能となった。別利用者は他の通所介護では、嗜好品（タバコやコーヒー）などの提供が難しく、決められた時間にならないと帰れないことで在宅生活が困難であったが小規模多機能型居宅介護を利用することで臨機応変なサービスが使える周辺症状もなくなり帰宅願望が減少し、在宅生活が問題なくおこなえている。

【今後の課題】

現在、取り組みだけでは対価を得ることができない。そのため、当事業所では「つゆ」（出汁）の販売がおこなえるように各関係機関と協議をおこなっている。事業所で「つゆ」（出汁）を作成し、販売が可能となればラベルを貼る作業や発送作業をして頂くことで対価を得ることが可能となる。得た対価を利用者に還元することで高齢者や認知症でも社会的役割が得ることが出来るようにしていきたい。

【参考資料など】

森田洋之・加藤忠介，あおいけあ流介護の世界，2016，南日本ヘルスリサーチラボ

テーマ：認知症ケア

利用者の方が穏やかに生活を送れるために 出来る事を見つける

社会福祉法人 野田福祉会 特別養護老人ホーム ハーモニー
宇野哲成

●事業所紹介

特別養護老人ホームハーモニーです。周りは自然が多く、春には桜が満開です。職員もいつも笑顔で頑張っています。とても活気ある施設です。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

日々のケアの中で入居者の方と向き合い信頼関係を築くことでその人のことを理解しその人にとってのニーズは何かを探り出し考える。

【具体的な取り組み】

毎日の挨拶、声掛けを行いまめに関わりの機会を増やす。
場面によって表情やしぐさを観察し記録に残す。
Aさんが落ち着いてもらえるような対応、声掛けを共有する。

【活動の成果と評価】

Aさんに食事のメニューを紹介することで本人が気に入った物を口にしてもらえた。
変わったものや味の濃い物、甘い物が比較的好みだとわかった。
昔のなじみのある話をすると表情が和らぐ時がある。

【今後の課題】

日々の関わりの中で入居者の方からの言葉やしぐさを一つ一つ見逃さずに何を伝えようとしているのか、何がしたいのかを把握しケアの内容を振り返り改善、評価を行う事が大切である。
職員一人一人が認知症の理解を深め目的意識をもってケアの統一化を図ることができるよう
今後もチームでの取り組みとしてケアの向上につなげていく。

テーマ：在宅生活の充実／多職種連携

軽費老人ホームにおける看取りケアについて

社会福祉法人 さつき会 軽費老人ホーム 延命荘

生活相談員：杉本淳

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

軽費老人ホームで看取りケアは本当にできるのか？
終末期を迎えた入居者様が、在宅の方と同じように住み慣れた延命荘で生涯を閉じるにはどのような関わりが必要なのか。

【具体的な取り組み】

4名の入居者に対し看取りケアを実施。施設職員・訪問診療の医師・訪問看護師・薬剤師などの多職種が連携し、本人が本人らしく最期を迎えられるように対応を行っていく。

【活動の成果と評価】

看取りは特別な事ではないという意識を職員全員が持つことが出来た。
多職種が同じ気持ちで1人の人を支えているという実感が持てた。

【今後の課題】

入居者本人が看取りを希望された場合、本人の思いや家族の思いにどれだけ沿っていきけるか、最期は満足に旅立てるのかどうかは永遠の課題である。

テーマ：リハビリ

生きがいのある人生を ～一人ひとりの「やりたい」を形に～

社会福祉法人 大阪福祉会 特別養護老人ホーム ハピネス金岡
介護職フロアチーフ：中原伴安／喜田将生

●事業所紹介

第1 デイサービスセンター：定員20名（月～土）
第2 デイサービスセンター：定員30名（月火水金土）
〔同敷地内〕 特養、ショートステイ：126名 職員90名 平成10年4月開設 ・居宅介護支援センター・グループホーム・ヘルパーステーション 理念「愛される施設・心ある介護」

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

様々な疾病により、ADLが低下し、「やりたい」ことが困難になってしまった利用者、理学療法士による運動指導やパワーリハビリによる機能訓練、手芸などによる手指の運動を施し、一人ひとりの「やりたい」を形にしていき、生きがいのある人生を過ごしていただくよう取り組みました。

【具体的な取り組み】

- ・第2 デイサービスセンターには理学療法士が常勤しており、利用者個々のADL・具体的な目標に合わせた運動指導を行なっています。更に、パワーリハビリを行なうマシンが4台（6種類）と、ルームランナー、エアロバイクが設置されており、高齢で身体が動きにくく自信がない方でも安心して運動に取り組んでもらっています。
- ・第1 デイサービスセンターには毎週水曜日に折り紙のボランティアが来られ、高度な折り紙を製作したり、様々な手芸レクリエーションを一ヶ月程の期間で継続製作したりしてもらっています。

【活動の成果と評価】

- ・転倒骨折や、脳梗塞などで入院されていた方が、運動指導やパワーリハを行なうことで、ADLが向上し、仕事復帰されたり、ふれあい農園に参加出来るようになったりしています。また、歩行困難だった方が、杖を使用しての自立歩行がなんとか可能になり、その状態から10年以上ADLを維持されている方もいます。
- ・手指を使っただけの高度な折り紙などの製作を行なうことで、認知機能の低下を防ぐ効果があります。更に、一つの製作を一ヶ月ほど継続して実施することで、次回の参加を心待ちにされたり、少しずつ完成に近づいていく課程を楽しみにされたりしており、大変好評です。現在では折り紙製作などが趣味となり、生きがいを持って過ごされている方もいます。

【今後の課題】

「やりたい」を声に出せなかったり、意思表示ができなかったりする方などの対応にどう寄り添うかを検討していくことも大切だと考えています。

【参考資料など】

ハピネス金岡ではデイ新聞や特養新聞を発行しており、行事や日々のご様子などを掲載しています。また、ホームページにも掲載しています。「特別養護老人ホームハピネス金岡」で検索してみてください。

テーマ：特別養護老人ホームにおける個別ケア

ひとつひとつの思いに寄り添うためのケア

社会福祉法人 桜会 特別養護老人ホーム グリーンハウス

統括主任：中金莉那

●事業所紹介

グリーンハウスはユニット型特別養護老人ホーム（全室個室・全室トイレ付）です。グリーンハウスではユニットケアを実践し、入居される方々が加齢や病気や障害等によって一人でできなくなった生活行為を支援するだけでなく、プライバシーや個人の尊厳も大切にしています。グリーンハウスへ入居する前の自宅で暮らした生活をグリーンハウスに入居しても継続できるように、また入居者・家族の皆さんが「グリーンハウスでどう暮らしたいのか」を聞き取り、入居者の皆さんの終の棲家となれるよう私たち職員は支援しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

入居される方たちがどのような暮らしを送りたいのか知るために、その方の生活リズム・意向・好みを把握する事が大切になります。生活リズム・意向・好みを知り、職員全員でその方の情報を共有し支援を行わなければいけません。そのために必要となるのが24Hシートです。入居者の望む暮らしを送ってもらう為、24Hシートの充実を図りもっと入居者の思いに寄り添ったケアができないかと思い取り組みを行いました。

【具体的な取り組み】

- ①意向・好みの聞き取りを、入居者や家族に行う。（以前の生活歴も含め、聞き取りを行なう）
 - ②24時間の生活に視点を置き、睡眠、目覚め等の生活リズムや排泄リズムを細かく記録に残していく。
 - ③実際にケアをした時の反応、良かった点や悪かった点を記録に残し、会議等で話し合う場を設ける。
- この3つを重点的に繰り返し行ない、24Hシートに記入をして取り組みを行いました。

【活動の成果と評価】

・施設に入居したら、「好きな物も食べられないし、好きな事もできない。」と施設の決まり事がたくさんあるイメージを持っておられ、好きなことはできないと諦めている入居者がたくさんいました。この取り組みをすることで、「好きな物が食べられ、好きな事ができる。」といった考え方をもって頂けるようになりました。入居者の表情も変わり、笑顔が増えたように感じました。ケアする側も、入居者のいろんな情報を知ることができたことで、入居者との関わりが楽しくできるようになりました。思いや願いを全て叶える事は難しいですが、少しずつできることから思いを汲み取ってケアをしていきたいと思いました。

【今後の課題】

職員によってケアの方法が違う、関わり方がうまくいかない等の課題もあります。今後、聞き取りをした情報をしっかりと共有していくことが課題です。24Hシートを活用し、職員が変わってもいつもと変わらない暮らしを送れ、入居者に寄り添えるケアができるように考えていきたいです。また、自分の意向が言えない方に対してさまざまな工夫を行っていきけるよう取り組みをしていきたいです。

テーマ：認知症ケア

余暇活動の充実 ～地域ボランティアの協力と世代間交流を活かした実践報告～

社会福祉法人 悠人会 特別養護老人ホーム ベルライブ
介護福祉士：安井晃

●事業所紹介

当施設は、老人保健施設・幼保連携型子ども園、各在宅サービスなどが併設された複合型施設であり、高齢者と子供たちが暖かくふれあい、世代間交流ができる全室個室のユニット型施設である。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

入居者の介護度の重度化・認知症進行により、職員と入居者と余暇を過ごす時間が少なくなり、入居者同士の交流も少なくなっている現状がある。そこで、多職種と地域ボランティアの協力及び保育園児との交流を活かし、入居者が興味をもって楽しみのある日常生活が送れるように「余暇活動の充実」に取り組んだ。

【具体的な取り組み】

- ①月1回の園児達との交流
- ②地域ボランティアと職員による施設内庭園での野菜・花の栽培
- ③入居者との庭園でのお茶会

【活動の成果と評価】

- ①保育園児との交流を行うことにより普段見られない表情や一面を見る事が出来た。また、園児・入居者で役割分担し、共同で作品を作る行うことで入居者から「また一緒にやりたい」との声も聞かれ活動の幅が広がった。
- ②庭園に咲いた花を觀賞しながらお茶を楽しみ、花の水やりなどのお世話を入居者と共に行うことで「明日も水やりがしたい」と意欲も見られるようになった。また、入居者同士の交流の場ともなりお互いに声を掛け合うようになり、「楽しい・良かった」との声が聞かれ、良い交流の場所になったと考える。お茶会以外でも、庭園で入居者が家族様と過ごす場面も見られ、よい気分転換の場所としても庭園は効果的であったと考える。

【今後の課題】

今回、地域ボランティアと荒れていた庭園を活用し少しでも入居者が興味を持ち参加できる余暇活動をめざし取り組んだ。今後は、更に、家族様と多職種が協力しながら入居者が意欲的に「やりたい」と思える余暇活動に取り組み、御家族・入居者の良い思いで作りにつなげる。

テーマ：社会（地域）貢献

地域の中の施設として ～わたしたちができること～

社会福祉法人 稲穂会 やすらぎの園津久野
高田理恵

●事業所紹介

「一日一笑」を通所介護の理念としている。その人それぞれが楽しみに通い楽しんで帰っていただけるようにサービスを行っている。35名定員。その人に合わせた利用時間に柔軟に対応。（1日利用・午前・午後）外出行事を多く取り入れている。日帰り旅行等の保険外サービスあり。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

地域の方が抱える課題を一緒に考え行動を起こす。
事業所が地域での1つの資源となるよう関係性を築く。

【具体的な取り組み】

月1回の地域交流の日を設け専門職として地域の方のニーズに応えた情報提供や趣味活動（カラオケ・体操）を実施。デイサービス行事での訪問販売日の告知を行い地域の方にも利用しやすい環境を作り施設に足を運んで頂く機会を作る。法人内講習に地域の方にも参加を呼びかけ一緒に受講する。夏祭りを協働で企画している。

【活動の成果と評価】

地域の一人の方の「地域を活性化したい」という思いに協力・連携することができた。毎月1回第3日曜日に定期的の実施できるようになり来られる方も10名前後と定着し楽しみにして下さっている。デイサービス利用に繋がる。「何かしたい」と声をあげてくれた方が喜んで下さっている。夏祭りを合同で計画にあたり高齢者だけではなく児童も一緒に企画する事ができた。

【今後の課題】

毎月、来て下さる方が固定している。誘い合って来てくれる場所としたい。地域の方のニーズに適切に応えられるように継続して関係性を築いていく。入居者様も地域住民の一員として社会参加の機会を設ける。職員体制や職員一人一人に理解してもらえるように発信する。

《ポスター掲示》



テーマ：食事・栄養・口腔ケア／排泄・入浴ケア／認知症ケア

個別ケアの導入によるQOLの向上

社会福祉法人 堺暁福祉会 特別養護老人ホーム あけぼの苑
介護職 主任：井上智康

●事業所紹介

特別養護老人ホームあけぼの苑
(事業内容) 特別養護老人ホーム：定員72名、
ショートステイ：定員10名、
デイサービス：定員 月～土35名 日：25名、
居宅介護支援事業所、北第3地域包括支援センター

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

提供しているサービスを具現化し個別ケアとして、その入所者の方に合ったサービスを提供できるようにする。それに伴い、職員一人一人の入所者の方に向き合う時間を作り、介護サービスの質の向上に努める。

【具体的な取り組み】

アセスメントシートを導入し、入所者の方の状態を各居室担当がアセスメントを実施し援助目標を設定する。各フロアの職員が援助目標を共有し援助を行う。月に1回モニタリングを行い、再アセスメントを行っていく。できるだけ、ご家族にも参加していただき、サービス担当者会議を開催、入所者とご家族のニーズに合ったサービスを提供できるようにする。そのニーズに伴った余暇時間の積極的活用。

【活動の成果と評価】

援助の方向性が定まり、具体化されたことで、各フロアの職員の入所者の方への意識が変わってきた。今までできていなかったケアプランと現場の介護がリンクしてきている。昔の趣味や希望など余暇時間を使い個人の希望に合わせて実施することで入所者の方の笑顔も増えた。

【今後の課題】

他職種の協力をもらわないと立てられない援助目標もあるので、他職種とも連携を密にしていく。

テーマ：人材育成・OJT／その他

アドバンス・ケア・プランニング (ACP) への取り組み

社会福祉法人 風の馬 特別養護老人ホーム アリオン
中辻朋博

●事業所紹介

2014年12月に開設された介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、入居が80人、短期入所生活介護が20人の計100床、全室個室となっております。居宅介護支援事業（ケアプランセンター）、訪問看護、通所介護（デイサービスセンター）を併設しております。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

アドバンス・ケア・プランニング (ACP)
いわゆる「看取り」に関する職員教育

【具体的な取り組み】

- ・入居申込み前の見学の際に、入居時に「看取り」や医療行為に関する希望を確認することを説明。
- ・入居時に、「看取り」や救急搬送等に関する希望内容を書面化。
- ・全身状態が低下しつつある段階で、医師を交えて相談、希望内容を具体的に書面化。
- ・「看取り」に関して職員を教育。

【活動の成果と評価】

- ・救急搬送するかどうかの判断が明確となった。
- ・「看取り」や医療行為に関する説明が、医師も家族も具体的に分かり易くなった。
- ・「看取り」の対応を職員ができるようになった。

【今後の課題】

- ・施設へ入居申込みする段階であれば、本人の意向に関しては「推察」となる場合が多いこと。地域住民の皆様に対して、アドバンス・ケア・プランニング (ACP) の広報。

【参考資料など】倫理的配慮について

- 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」厚生労働省
- 「日本版POLST（DNAR指示を含む）作成指針」日本臨床倫理学会
- 「Do Not Attempt Resuscitation(DNAR)指示のあり方についての勧告」日本集中治療医学会
- 「自らが望む人生の最終段階における医療・ケア」厚生労働省

テーマ：人材育成

法人内研修制度、技能実習生受け入れについて

社会福祉法人 ラポール会 特別養護老人ホーム くみのき苑 ゆらら

上田裕仁

●事業所紹介

- ・ 特別養護老人ホーム
- ・ 短期入所生活介護
- ・ デイサービス

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ・ 入社職員に対して、経営理念・事業内容を知ってもらおうと共に、社会福祉従事者として仕事に取り組む基本姿勢を身につけてもらいます。
- ・ 各受験対策講座 スキルUP

【具体的な取り組み】

- ・ 【成長】 新人職員研修・入職者研修・一般職研修・次世代研修・リーダー研修
- ・ 【支援制度】 実務者研修・介護福祉士受験対策講座・介護支援専門員受験対策講座
- ・ 【任意研修】 介護技術研修・認知症介護研修・フィードバック研修

【活動の成果と評価】

- ・ 研修成果（平成30年度） 介護福祉士 合格者 法人全体 21名（くみのき苑ゆらら 7名）
介護支援専門員 合格者 法人全体 6名

【今後の課題】

- ・ 今後も充実した研修制度を行いスキルUP。
- ・ 技能実習生については、ある程度のコミュニケーション能力はあるが、より高度な介護技術を身につける為、現場にて、技能習得に努める。
- ・ 社員が能力を発揮し仕事と生活の調和を図り働きやすい雇用環境の整備を行い離職率低下に努めていきたい

テーマ：認知症ケア

全ての人を笑顔にすることが目標なのです！

有限会社 律照 グループホーム 福田の郷

管理者：谷口寿恵

●事業所紹介

グループホームとは、認知症の方が共同生活する場所です。それを支えるのがこのサービスです。
グループホーム福田の郷は、利用者、そのご家族さんが“安心”できるホーム作りに注力しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

家族の不安や葛藤を払拭する。
(不安：施設を見学に行ったが何もせず座っている方が多かった。かわいそうに感じた。
葛藤：認知症介護に疲れているが、私が家で介護し続けた方が良いのではないか。)

【具体的な取り組み】

- ①ご家族とLineでの報告、連絡、相談した。
- ②ホームページで活動報告をするようにした。
- ③職員を多めに採用して、共同作業・レクリエーションを実施しやすくした。

【活動の成果と評価】

- ①「些細な事でも報告・連絡・相談があるので安心」という意見が多い。
- ②遠方のご家族様・親戚の方・ご多忙で面会頻度が少ないご家族様より、「楽しく過ごしてくれている」「家でいた時より明るくなった」などホームに入った方が良かったという意見がほとんどである。
- ③利用者が家事をしている姿に家族は満足された。また、予想していなかったが介護職員の退職者が減った。(約1年半介護職員の退職者が無い。)
(すべての取り組み) 今まで外部評価をしているが、家族様アンケートでもこんなに高評価ばかりの回答が返ってきたのは初めてである。(外部評価員の意見)
お葬式での喪主の挨拶でもホームの事を取り上げてもらえることが多くなった。

【今後の課題】

現在、この取り組みに対する課題は見当たらない。
しかし、時間に追われて、本来の認知症介護に必要な「関り」を失わないように、日々業務内容の改善を検討していく必要がある。

【参考資料など】倫理的配慮について

「グループホーム福田の郷」のホームページ参照。
ホームページで利用者さんの笑顔を見てもらえればわかると思います。

テーマ：レクリエーション

ご利用者の笑顔が見たい

社会医療法人 頌徳会 介護老人保健施設 ソルヴィラージュ

介護福祉士：清坂美紀

●事業所紹介

当施設は、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・相談員・介護士等多職種専門スタッフが常駐しており、特にリハビリテーションに力を入れています。医療を必要とされている方には、隣接する日野病院もご利用いただけます。また、在宅に戻られた後も、通所リハビリテーションや訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション等在宅サービスも充実しており、同じグループ内で切れ目のないサービスを提供しています。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

昨今のご利用者は多様な志向とご経験により、その内容に満足してもらうことが難しくなってきました。そこで、独自に「陶芸」「ポーセラーツ」「グルーデコ」「バレエ・ストレッチ」「ソーパークビング」「うた教室」「iPad教室」などワンランク上のカルチャー教室【SUNSUNクラブ】を開講している。

【具体的な取り組み】

こだわりシニアのための本格的なカルチャー教室【SUNSUNクラブ】は、全ての教室が外部からプロの専門家を招きご利用者お一人おひとりの身体能力を考慮して各回の教室を開催している。中でも陶芸教室は、半身麻痺の方でも抵抗感なく作品づくりが出来るように簡単な作品から始めて粘土の感触を覚えていきます。粘土の特性、扱い方、乾燥具合への注意、手の動かし方、力の入れ方、ろくろの位置調整など様々な刺激を脳や身体にインプットしていきます。

【活動の成果と評価】

ご自分のやりたいことを思いっきり実施されているご利用者の姿はとても晴れ晴れとした表情で生き活きとされており、楽しく行うリハビリテーションとなっている。また作成から完成までの過程で様々な刺激を脳や身体に良い影響や達成感も得られ、デイケアへ通う楽しみの一つとなっている。完成した作品を大型陶芸窯から取り出す際には、ご利用者から賞賛のお声をいただいた。

【今後の課題】

今後もご利用者の意見や希望を取り入れながら新たな取り組みを実施していき、ご利用者の笑顔とともに活気あるサービス拡大に努めたい。

【参考資料など】倫理的配慮について

本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認し説明・同意を得た。

テーマ：地域との連携／社会（地域）貢献

地域とのつながり “みんなの食堂”から始まる新たな展開

社会福祉法人 福生会
長岡武彦／福元恵美子／山田展裕

●事業所紹介

当法人は1951年に社会福祉法人第一号認可を得て、養老院（現在の養護老人ホーム）から始まりました。時代の流れにあわせ、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、在宅サービスを開設し今日に至ります。現在は“地域の方々とのつながり”を重視した活動を実施しております。

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

昨年実践発表会で紹介させていただいた、みんなの食堂in福生会ですが、2か月に1度開催のイベント型は毎回好評をいただいております。毎日型（昼食と夕食共に5食提供）では老弱男女を問わず、幅広い世代の方を対象に取り組んでおります。今後区教健・健全育成会議とも連携し“学校に行きづらい生徒に対する支援”も検討しております。

【具体的な取り組み】

イベント型では、開催するたびに学校と自治連合会に協力してもらい参加者を募っております。協力してくれるボランティアの方も継続して来てもらえており、更に回を増すことに増えてきております。

毎日型では、小中学生が訪れた際に、子どものサポートには年齢の近い世代の協力が必要であると考え、大学生1名がボランティアとして参加してくれています。学生には色々な世代と交流してもらおう意味で、当法人のデイサービス利用者とも関わってもらおう事となっております。

【活動の成果と評価】

イベント型では受付人数を大きく上回り、キャンセルが出るほどになっています。参加している子ども達からは、「ここは自宅のようで過ごしやすいため毎回来たい。」と嬉しい声をいただいております。

毎日型では、中区の小中学校を担当しているスクールソーシャルワーカーより紹介を受け、7月に支援を行いました。最初は付き添いの母親のそばを離れず、話も全く聞いてもらえませんでした。色々な活動を通じて少しずつ慣れていき、テーブルゲームをする時には、笑い声をあげ楽しまれていました。母親より、あれほどの笑顔を他人にみせたのは久々なので、継続してもらいたいという意見をいただきました。

【今後の課題】

この事業には様々な世代の方の関わりが必要です。これから子どもと近い世代のボランティアの募集をどのように行っていくか検討しています。

テーマ：自立支援

私らしい生活を実現するノーリフティングケア ～介護職のイメージ革新～

社会福祉法人 三篠会 特別養護老人ホーム 松屋茶論
理学療法士（機能訓練指導員）：豊永一樹

●事業所紹介

特別養護老人ホーム80床 ショートステイ20床

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

寝たきりの方に対するケアは「時間がかかる」や「大変そう」など、とにかくネガティブなイメージが多いことで生活介護に対して前向きになれず、スタッフの都合によってケアの方法が変更になることがしばしばある。松屋茶論ではこのようなネガティブイメージを払拭するため、スタッフの介護負担の軽減と入居者のQOL向上を目標に掲げ、入居者とスタッフ双方に負担の少ない介護の実現に向けノーリフトケアに取り組んでいる。

【具体的な取り組み】

床走行式リフトを使用し毎食を車椅子に座っての食事。スライディングボードを用いた移乗。QOL向上に向けた中庭の生花を見て触れる活動。スタンディングリフトを使用したトイレ誘導。

【活動の成果と評価】

毎食、車椅子に座って食事をしていただくことで、日常生活において座る時間が増えリフト移乗からスライディングボードを用いた移乗に変更することができた。これにより、食事前後の移乗ケアに対する時間的負担軽減によってケアに対する時間的余裕が生まれ、入居者さんの「やりたい」気持ちを待つ介護を実施することができた。また、入居者の生活改善を目的に、QOL向上に向けた取り組みをスタッフが能動的に行うことができた。さらに、スタンディングリフトを使用したトイレ誘導を確実に実施できたことで入居者の思いを尊重したケアを行うことができた。

入居者の生活状況に合わせ福祉機器・用具の選定を行いスタッフの労働環境を改善することで介護上の負担が軽減し入居者の当たり前の行為を実現することを可能にした。入居者はご自身でできることが増えることで生活に対し前向きになれ自分らしく過ごすことを可能にした。上記内容を双方の関係で見ていくと入居者のできることが増えることでスタッフの介護負担が減り、当たり前の行為を実現することで自分らしく過ごすことができるといった双方に対しメリットのあるケアを実現できたと考える。

【今後の課題】

今回のような成功事例を多くのスタッフと共有し、ケアスタッフが自信と誇りを持って入居者とスタッフ双方にメリットのあるノーリフティングケアを実践できるように人材育成の体制整備と労働環境づくりが必要。

テーマ：在宅生活の充実

堺市内に数少ない定期巡回・随時対応型 訪問介護看護事業の実践について

社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 美原荘
在宅サービス科長：大井毅史／オペレーター兼介護職員：澤田勝里

●事業所紹介

堺定期巡回・随時対応ケアサポートOJS

●発表の要旨

【取り組んだ課題】

- ・法人唯一の事業展開。サービス内容と報酬体系の周知とサービス利用の拡大及び安定的な供給体制作り。

【具体的な取り組み】

- ・近隣の居宅介護支援事業所へのこまめな営業活動。
- ・きめ細やかなサービス提供による信頼獲得。
- ・サービス供給体制の基盤作り。（人員の確保）

【活動の成果と評価】

- ・平成24年10月からの事業開始当初は利用登録者数の伸び悩みがあったが、昨年度は最大で登録者数26名まで人数が伸びた。
- ・サービス利用者及びご家族からは、このサービスがあったから在宅生活が継続出来たと高い評価を得ている。

【今後の課題】

- ・以前としてサービス提供体制が不安定であるため、しっかりとした基盤作りを行い、安定してサービス提供が出来る体制を作っていくとともに、サービス内容の周知を継続的に行っていく必要がある。
- ・堺市内でも事業所が増えないため、行政側も地域密着型サービスの必要性を加味し、事業立ち上げの後押しをお願いしたい。

アンケートにお答えいただいた方には、
素敵なプレゼントをご用意しております。



アンケート協力をお願い

下記二次元コードよりアンケート入力フォームへアクセスし、回答してください。
アンケートへ回答後、3階フラットホールにある「プレゼント引き換え場所」へ
お越しください。
プレゼント引き換え場所で「アンケートに答えました」と言っていた方に
プレゼントをお渡しします。

アンケートへの回答はこちらから



【ウェブアンケートへアクセスできなかった方】

「プレゼント引き換え場所」に記入用紙をご用意していますので、お立ち寄りの
上、ご記入ください。回答していただいた用紙と引き換えにプレゼントをお渡し
します。

2019年度

さかい福祉と介護の実践発表会 抄録

発行

堺市健康福祉局 長寿社会部 地域包括ケア推進課

〒590-0078 大阪府堺市堺区南瓦町3-1

TEL: 072-228-0375 FAX: 072-228-8918

E-mail: chisui@city.sakai.lg.jp